

令和8年度第1回北海道立旭川美術館協議会議事録

- 1 日 時 令和8年8月6日（木） 10時00分～12時00分
- 2 場 所 北海道立旭川美術館講堂
- 3 出席委員 石前聖香（会長）、馬場拓也（副会長）、岡崎さおり、岸本恵理加、小柳美和、地徳一美、成田恵、馬場信明、山岸神楽、山本美和（12名中10名）＜敬称略50音順＞
- 4 傍 聴 者 なし
- 5 出席職員 館長 中村聖司、副館長兼総務課長 中山雅博、主査 小野寺恵理波、主事 岩田将平、学芸課長 寺地亜衣、学芸員 浦島七那、臨時学芸員 関口千代絵

6 議 事

委員の互選により会長及び副会長を選任し、館長挨拶後、会長の議事進行により、次の議事について、各委員に諮った。

（1）旭川美術館の取組について

（2）令和8年度（2026年度）事業運営計画について

委員	～議事(1)について、配付資料に基づき、事務局から説明～ 〈意見、質問なし〉 ～議事(2)について、配付資料に基づき、事務局から説明～ 〈意見、質問なし〉 ～全体を通して、意見等を求める～ SNSを見て、学芸員の努力が垣間見える。楽しそうな雰囲気が伝わってくるような投稿が増えた。これまでの協議会で出されていた、美術館の裏側をみせてはどうかという意見が、しっかりと反映されていると思う。少しずつ変化していると感じた。
委員	小学生の頃、美術館に来て西洋絵画の展覧会を見て、ドレスや貴族など興味を持ってみたこと、絵はがきを買って家で飾っていたことを覚えている。日常とのつながりや興味・関心があることが気になる。当時、どうやって描いていたのか、とかを知れると世界が広がる。 iPadで絵を描いている漫画家もいると聞いたので、キャラクターに素敵な模様を付けられると子どもも興味を持って美術館に足を運んでくれるのかなと思う。
会長	子どもの頃の印象がいつまでも残っていて、大人になっても足を運ぶきっかけになるのかと思う。 子ども達にそういった体験をさせるのも、オンラインアート教室などを管内の学校にも利用してもらえれば良いのかなと思う。
委員	先ほどの学芸員の説明を聞いて色んなことがわかる。シンプルに見

	るだけではなく、色んな背景がわかり、こういう見方もあるのかと感じた。 上川管内は非常に長い土地柄であるので、近隣町村であれば直接来られるが、遠方だとオンラインアート教室の活用が子ども達が作品に触れられる機会となる。学芸員の詳しい解説もあると関心が高まる。 広重はCMで、子ども頃にインプットされているので、見に行かなければと思っている。
会長	広重は美術的な観点で触れる以外にも、小・中学校では歴史の授業に出てくるので、過去の浮世絵展を学校で利用した際には、「教科書に載っていた」「どうやって作ったのか」など子ども達も関心が高かった。色々な観点から学びの場を提供してくれるのが美術館だと感じた。
委員	大学内で美術館の話をしている人はいない。大学生にも広まって、観覧してくれるといいなと思い公募に応じた。 大学生がどうやったら美術館に来たくなるのか、広めるためにどうすれば良いか方策を考えていきたい。
委員	SNSでも作品を見ることができるが、生で絵を間近で見ると全然違うので、用事があるときに寄って帰りたい場所。 年3回くらい旭川美術館に来るが、駐車場が満車で20分くらい待ったが入れなくて帰ったこともある。
会長	駐車場も数が限られるので、中々苦しいところだと思う。個人で来るだけではなく、所属する団体に口コミで広げていくのも輪が広がる。大事なことだと思う。
委員	絵本専門士として活動している。実家は旭川市だが、美術館に入った記憶がないが、去年の「かがくいひろしの世界」展には4回来た。 「岩合光昭の世界ネコ歩き2」展にも来た。何十年も来ていなかったが、短い期間で何度も来て美術館にはまってチェックするようになった。 絵本や紙芝居と関連して観るが、東山魁夷の作品は絵本になっており、関連付けできる。 14、15年前に開催した剣淵町の絵本の館が所蔵している原画展では、絵本の読み聞かせをするなど、関連があるんだと感じた。 絵本の館では、年に1回、板橋区の図書館とオンラインで紙芝居を読み合う取組をしている。他の町と美術館の展示をつなぐ事業があると楽しいのかなと思う。 アンケートについては、紙に書くのが面倒くさいと感じてしまう。 もうあるのかも知れないが、QRコードがあっても良い。
会長	入口は絵本であっても、色々な美術作品に触れることで、足を運ぶ

	回数が増える。
委員	喫茶コーナーのトーストがアートホテル旭川のもので、大変おいしかった。そういった点も SNS などの宣伝に付け足すと来やすくなると思う。 せっかく隣に旭川で一番大きな公園があるので、疲れたついでに、美術館で一休みという風になれば良い。 海外の美術館で、観覧した後に有名な作品と知って、もっとゆっくり観ればよかったと、残念なことがあった。事前にこの絵はこんなに素晴らしい、教科書に載っているなど、作品の情報が知ることができたら、観ようと気づきになるのでは。
会長	著作権など、課題がクリアできれば。
委員	解説があると見方がかわる。音声ガイドもそうだが、解説・説明があると、足を止める方も増えると思う。 ボランティアは広報で募集すると応募が増える。色々なメディアで発信することで、関心が高まるきっかけになると思う。
委員	北海道教育大旭川校の私のデザインゼミでは、昨年、「会いに行こう！アートになった動物たち」展に関連して、図書館に学生の作品を展示した。また、今年度は「岩合光昭の世界ネコ歩き2」展に関連して、ネコグッズのノベルティを作成するなど、旭川美術館と連携している。 気になったのは、予算の増額は可能かどうか。
事務局	予算の枠があり、その中でやり繰りしている。よほどの理由がないと増額は困難。資料の中にある学芸員の取組による予算配分の仕組みは、現状、あくまでも希望であり、今後、本庁と協議していきたいと考えている事項。
委員	新たなウルトラCの企画をつくって、お金を集めてこない限りは難しいということだと理解した。 昨年1年学芸員と一緒に仕事させていただいて、通常の業務以外にもそういった企画も担当されて、大変だなと感じている。 さらに学芸員に負担が増すのは難しい状況なのかなと思う。 旭川美術館が、市民、道民にとってより良い場になるよう考えられれば、皆さんと意見を出し合いながら一緒に考えていきたい。
事務局	予算の関係で、数年前から話題になっている事柄について情報提供を。 現在開催中の「うつくしき日本画」展は北海道新聞社と、昨年の「かがくいひろしの世界」展は旭川市民実行委員会との共催で開催しており、美術館には1銭も入ってこない。これは、1977年に北海道立近

	代美術館が開館したところからの扱いであるが、展覧会是一个の事業なので、黒字もあるし赤字もあり得る。道教委としては赤字になった場合、予算を新たに付けることが難しいので、困ったことになる。赤字になっても道教委は負担しない代わりに黒字になった場合、収入は共催者のものとなる仕組みとなったが、北海道の財政が厳しい中で、外部委員の監査でも指摘されている。 美術館が出すお金は少なくとも、共催とすることで大きな展覧会を開催することができる。良い面と悪い面がある。この仕組みが良いのか近代美術館が中心となって検討が始まっている。 （ 終 了 ）
--	---